

## 学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	田川 麻央 【比較社会文化学専攻 平成20年度生】	<p>第二言語（以下 L2）学習者は単語の認知や一文の文法解析などの言語処理に多くの認知資源を費やすため、情報間を関係づけていくなどの文章の処理と保持に回す認知資源が制約されることが指摘されている。また、L2 習熟度の低い中級学習者は、母語話者と比べて要点及び詳細情報を関係づけて把握することが難しく、上級学習者でも詳細情報を把握するのが困難であることも報告されている。</p> <p>そこで本研究では、L2 として日本語を学習する中級及び上級中国語母語話者学習者の読解において、文章の要点の関係を示した要点関係図を作成するストラテジーが首尾一貫した表象（coherent representation）に寄与するのではないかと考え、その効果について検証することを目的とした。</p> <p>本研究の結果以下のことが明らかになった。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中級学習者では要点関係図作成の要点探索と関係探索によって促される効果は異なるが、総合的には要点関係図作成によって首尾一貫した表象の構築が促進される。</li> <li>2. 上級学習者においても要点関係図作成によって首尾一貫した表象の構築が促進される可能性、及び要点関係図作成によって中級学習者の表象は上級学習者の表象に近づく可能性がある。</li> <li>3. 読解過程での要点関係図作成の要点探索と関係探索の関わり方は中級学習者と上級学習者では異なり、上級学習者は中級学習者と比べて要点探索と関係探索が相互に関わりあっている。</li> <li>4. 要点を論理的に関係づけることで首尾一貫した表象の構築が高まるが、単に要点関係図作成を行うよう指示するだけではその効果は限定的なものになり、要点探索を促すかに焦点を当てて、いかに要点関係図作成を指導するかが重要である。</li> </ol> <p>審査は左記 5 名の審査委員により行われ、第一回審査会では、本研究が中級学習者と上級学習者の読解過程における要点関係図作成過程での要点探索と関係探索のそれぞれの関わり方及び要点関係図作成の首尾一貫した表象構築への有効性とその限界を明らかにした点で評価された。しかし、統計結果の記述方法の検討の必要性が指摘され、若干の表現の修正も求められた。第二回審査会においてはこれらの修正が適正に行われていることが確認された。</p> <p>最終試験を兼ねた公開発表会では、明快かつわかりやすい発表がなされた。また参加者や審査委員からの質問にも真摯で的確な応答を行った。以上から最終試験に合格し、博士（人文科学：Ph.D. in Applied Linguistics）として認定するに値すると判定した。</p>
論文題目	日本語学習者の読解における 要点関係図作成の効果に関する研究	
審査委員	(主査) 教授 佐々木 泰子	
	教授 石 口 彰	
	教授 宮 尾 正 樹	
	助教 西 川 朋 美	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・<input checked="" type="radio"/>否）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="radio"/>ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	